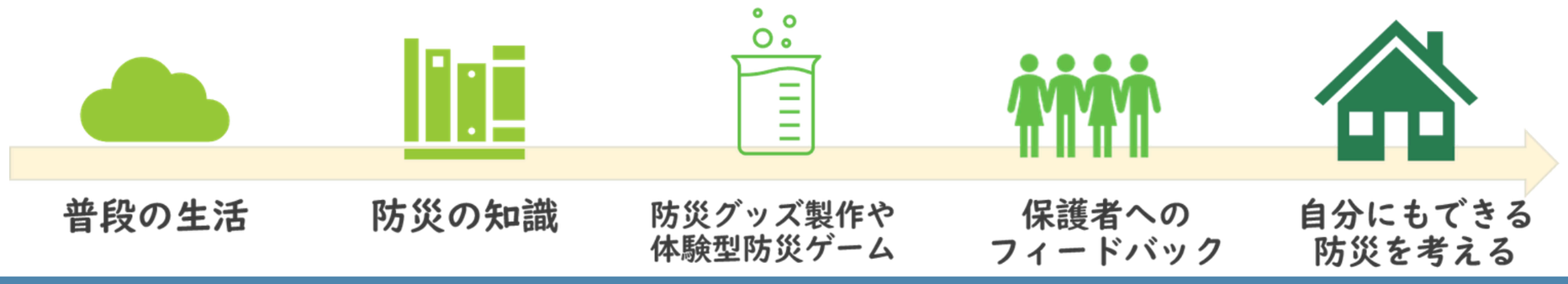
目　的

本研究では、小中学生を対象に防災講座前後におけるこどもの防災意識の変容を明らかにし、防災教育効果について検討すること



方　法

【対象者】A市内で協力を得られた小学校2校、中学校１校の生徒246名
【調査方法】無記名自記式質問紙調査、防災講座前後に配布・回収
【調査内容】基本属性、セルフ・エスティーム尺度（７項目）、
子ども用防災意識尺度（15項目）
※対面調査による有効回収数　233名（94.7%）
【分析方法】講座前後の変化 … Wilcoxonの符号付順位検定
学校段階の２群間比較 … Mann-Whitney U検定
分析：IBM SPSS Ver.28を用い、有意水準は5%未満とした
【倫理的配慮】西九州大学研究倫理委員会の承認（承認番号25ANE12）

結　果：子ども防災意識尺度

1. 防災講座前後の関連性 ⇒ ６項目で有意な差が認められた（P＜.001）
２：災害がおきても身を守る自信があると思う
３：災害がおきても大丈夫だと思う
10：電気・ガス・水道が止まっても、工夫や協力でなんとかできると思う
12：災害や避難について学んだことは、家の人に教えてあげたいと思う
13：災害がおきたとき、落ち着いて行動できると思う　など

2. 学校段階の2群間比較 ⇒ 15項目で有意な差が認められた
２：災害がおきても身を守る自信があると思う（前P＝.003、後P＜.001）
３：災害がおきても大丈夫だと思う（後P＜.001）
10：電気・ガス・水道が止まっても、工夫や協力でなんとかできると思う
（前P＝.007、後P＜.001）
15：困ったら周りの大人が助けてくれると思う
（前P＜.001、後P＜.001）など

考　察

講座前後の変化と２群間比較の結果の組み合わせから5つのカテゴリーに整理
Ａ：講座前後＋２群間比較（前後）⇒ 自助意識（項目２・10）
Ｂ：講座前後＋２群間比較（後）⇒ 自己肯定感（項目３・４・13）
Ｃ：講座前後のみ ⇒ 伝える意識（項目12）
Ｄ：２群間比較（前後）⇒ 共助意識（項目７・９・15）
Ｅ：２群間比較（前） ⇒ 積極性（項目５・８）

講座の受け止め方や学習効果に学校段階による違いが生じた可能性が示唆された